

砂浜の新参者「オニハマダイコン」



オニハマダイコン

今年は、海浜植物

保護センターへ「これは何ですか？」とよく尋ねられた植物があります。「オニハマダイコン」という植物です。名前のとおり、ダイコンの仲間のアブラナ科ですが、根はダイコンのように白く、太くはなっていない。

海岸での生育場所は汀線（なみだ）からごく近い砂浜です。葉は多肉質で、おそらく海水

に浸つても生育できる塩生植物であると思われます。大きなもので径50cmもの株に育ちます。果実はヒヨウタン（こけし）のような形をしており、水に浮きます。

オニハマダイコンは、1982年に新潟県の海岸で発見されてから、東北、北海道地方へ急速に分布を広げた北米原産の外来植物です。水に浮く果実が北へ流れる対馬海流に乗って、北へ分布を広

げたことが想像できます。『日本帰化植物写真図鑑』には、1999年に襟裳（えりも）で撮影された写真が載っていますので、津軽海峡を西から東へ流れる海流に乗ったことも推測できます。海流を使って巧みに分布を広げているようです。

石狩浜では、2年前に初記録がありました。その後、瞬く間に石狩川河口先端部や石狩湾新港東ふ頭の東側の砂浜で多くの株が観察されるようになりました。種子は風でも周囲へ運ばれるでしょう。株は年々増えているように思います。

砂浜は、塩、風、貧栄養と、植物が生きるには過酷な環境ですが、それを克服すれば、逆に競争相手になるほかの植物種の少ない環境でもあります。石狩浜でまだまだ増えていくのか、これらも観察していきましょ。

（内藤華子）



オニハマダイコンの果実



■文化財課・いしかり砂丘の風資料館 ☎62-3711
✉bunkazaih@city.ishikari.hokkaido.jp
■石狩浜海浜植物保護センター ☎72-3240
✉ihama@city.ishikari.hokkaido.jp